

## 長野県内における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」の認知と意識調査

津田洋子<sup>1)</sup>、塚原照臣<sup>1)</sup>、日高義彦<sup>1)</sup>、稲葉雄二<sup>2)</sup>、金井誠<sup>3)</sup>、栗田浩<sup>4)</sup>、大平哲史<sup>5)</sup>、福嶋義光<sup>6)</sup>、野見山哲生<sup>1)</sup>

(1. 信州大学医学部衛生公衆衛生学、2. 信州大学医学部小児医学、3. 信州大学医学部小児・母性看護学、  
4. 信州大学医学部歯科口腔外科学、5. 信州大学医学部産婦人科学、6. 信州大学医学部遺伝医学・予防医学)

キーワード：エコチル、認知、意識、質問紙調査

**要旨：**長野県内の住民を対象に、エコチル調査に対する認知と意識調査を毎年1回、3年間実施した。「エコチル調査」という言葉の認知割合はエコチル調査対象地域内において3年間を通じて確実に上昇しており、マスコミ媒体の効果も見られた。エコチル調査への関心や社会的重要性は6割以上が感じていたが、調査や講演会等への参加意思は「どちらともいえない」と回答する人が多かった。エコチル調査は13年間にわたるコホート調査であり、調査への継続的参加には地域の人々の認知や意識が影響を与える。地域への調査結果のフィードバック、環境と子どもの関わり等の情報提供を含めた広報活動により、地域の人々が「参加・協力したい」と思えるような働きかけをすることが大切であると考えられた。

### A. 目的

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)は環境省が企画立案し、国立環境研究所が中心となり全国15か所のユニットセンターで行われている大規模疫学調査である。2011年1月31日よりリクルートが始まり、2014年3月31日まで全国で10万組の母子に参加を募る。信州大学は山梨大学と共に甲信ユニットセンターとして参加し、上伊那地域8市町村を調査対象地域として2712組の母子の参加を目標としている。調査はリクルート期間に対象地域で出生する児の50%の参加を想定している。エコチル調査は子どもが13歳になるまで調査を継続することから、参加の決定および継続的参加には地域におけるエコチル調査の認知や参加意識が大きく影響を及ぼすと考えられる。3年間にわたり長野県内のエコチル調査の認知度を調査したので報告する。

### B. 方法

2011年2月、2012年2月、2013年3月に、長野県内のエコチル調査対象地域(上伊那8市町村)(以下、調査対象地域内)と非対象地域(上伊那8市町村を除く長野県全域)(以下、調査対象地域外)より150人ずつを抽出し、郵送による無記名の質問紙調査を実施した。質問紙送付対象者は、送付対象地域と同様の性・年齢分布になるように、無作為抽出した送付者リストから抽出した。質問項目は①対象者の属性(性別、年代、婚姻の有無、子どもの有無と人数、職業)②エコチル調査の認知「エコチル調査という言葉を知ることがあるか?」③マスコミ媒体(新聞、テレビ・ラジオ、雑誌等)によるエコチル調査の認知④エコチル調査への関心⑤エコチル調査は社会において重要か⑥

エコチル調査への参加協力意識「もし、あなた、あるいはあなたのパートナーやお子さんがエコチル調査の協力依頼を受けた場合、エコチル調査に参加したいとおもいますか?」と参加方法⑦エコチル調査に関する講演会等(環境と子どもの発育、発達、子育て等)への参加意識⑧エコチル調査サポーター登録の意識、とした。(エコチル調査サポーター：エコチル調査への社会の理解と応援を得るための制度。調査への参加の有無に関係なく、誰でも登録が可能。サポーターはメールマガジンでエコチル調査の最新情報を入手できる)

### C. 結果(表1)

20~70歳代で回答が得られたが、調査年および調査地域内外で年齢分布と性別の違いはなかった。エコチル調査を知っている人は調査対象地域内に多く、2012、2013年は調査対象地域内外の認知割合に統計学的有意差がみられた( $p < 0.01$ )。エコチル調査を知っていると回答した人のみマスコミ媒体の回答を依頼した。新聞記事や広告、テレビ・ラジオ番組を見たり聞いたりしたことのある人は多く、また、調査対象地域内ではコマーシャルを知っている人の割合が上昇していた。回答者の6割以上が、エコチル調査に関心を持ち、社会的に重要な調査であると感じていたが、エコチル調査に関する講演会等への参加意思のある人は3割程度、サポーター登録の意思がある人は2割に満たなかった。

### D. 考察

回収率は5割程度であり良い回収率とは言えず、エコチル調査および本調査そのものに興味のない対象者が回答をしなかったことは否めないが、調査実施年ご

との調査対象地域内と地域外の回収率に統計学的有意差はなく、調査対象地域外においては調査実施年による回収率の変動は見られたが増加もしくは減少を示すものではなかった。

「エコチル調査」という言葉の認知については、調査対象地域内のほうが多く、年ごとにその割合も増え、2012年および2013年の調査では地域内の回答者が有意に多く認知している結果であった。突出して認知割合の多いマスコミ媒体はなく、調査対象地域内外の差も見られなかった。雑誌への広告掲載、2012年度より開始した「エコチル信州応援団」および番組商業放送（FM長野）は長野県全域を対象としていることから、複数の広告媒体により県内全体に認知が広がっているものと推察された。調査対象地域内では市町村広報紙による広報活動、更に、年1回伊那市内で開催しているエコチルフェスティバル（活動報告と講演会、子供向けイベント）の記事などが地域の新聞・雑誌等に掲載されている。その為、調査対象地域外よりもエコチル調査を認知している人が多かったと考えられた。

エコチル調査への関心と、エコチル調査の重要性は

調査対象地域内外共に6割以上感じているが、調査への参加は3割程度、サポーター登録と講演会等への参加意思のある人の割合は更に低い結果であった。これらの違いは「どちらともいえない」の回答者が多いことによると考えられた。

#### E. まとめ

長野県内のエコチル調査認知度と意識について、質問紙調査を、2011、2012、2013年に実施した。「エコチル調査」という言葉の認知は調査対象地域内で経年的に上昇しており、調査対象地域外に比して有意に認知されていた。マスコミ媒体による認知効果は出てきており、エコチル調査を必要とは思っているものの、参加・サポーター登録の意思のある人は伸び悩んでいた。エコチル調査は2014年3月31日までリクルートを行い、子供が13歳になるまで調査が継続される。リクルート時にエコチル調査を認知していることや一般の方々のエコチル調査への認知・社会的重要性の意識は、参加者の増加や13年間の調査への継続的参加に大きな影響を与える。今後は、明確に参加・協力を意識していない人々に「参加・協力したい」と思わせるような働きかけが必要であると考えられた。

表1 回答者の属性とエコチル調査の認知および意識の割合

	調査対象地域内			調査対象地域外		
	2011年	2012年	2013年	2011年	2012年	2013年
回収率 (%)	45.3	52.0	50.7	44.0	60.0	55.3
(回収数/配布数) (人)	(68/150)	(78/150)	(76/150)	(66/150)	(90/150)	(83/150)
性別 (男性/女性)	25/43	32/46	31/45	26/40	40/50	38/45
エコチル調査を知っている (%)	23.5	43.6	46.1	12.1	5.6	10.8
(知っている/知らない、未回答) (人)	(16/51, 1)	(34/42, 2)	(35/41)	(8/57, 1)	(5/84, 1)	(9/74)
マスコミ媒体によるエコチル調査の認知						
新聞記事や広告を見た (%)	43.8	47.1	68.6	50.0	40.0	66.7
(見たことがある/ない) (人)	(7/9)	(16/18)	(24/11)	(4/4)	(2/3)	(6/3)
テレビ・ラジオ番組を見た (聞いた) (%)	43.8	67.6	45.7	37.5	40.0	66.7
(見たことがある/ない) (人)	(7/9)	(23/11)	(16/18, 1)	(3/5)	(2/3)	(6/3)
コマーシャルを見た (聞いた) (%)	12.5	35.3	48.6	25.0	20.0	55.6
(見たことがある/ない) (人)	(2/14)	(12/22)	(17/18)	(2/6)	(1/4)	(5/4)
雑誌記事・広告を見た (%)	31.3	29.4	40.0	50.0	40.0	0.0
(見たことがある/ない) (人)	(5/11)	(10/24)	(14/21)	(4/4)	(2/3)	(0/9)
エコチル調査に関心がある (%)	63.2	66.7	75.0	66.7	68.9	65.0
(ある/ない、どちらでもない、未回答) (人)	(43/3, 20, 2)	(52/10, 16, 0)	(57/3, 15, 1)	(44/4, 18, 0)	(62/4, 23, 1)	(54/7, 22, 0)
エコチル調査は社会的に重要だと思う (%)	66.2	71.8	69.7	65.2	66.7	74.7
(思う/思わない、どちらでもない、未回答) (人)	(45/0, 23, 0)	(56/1, 20, 1)	(53/2, 20, 1)	(43/0, 23, 0)	(60/4, 25, 1)	(62/2, 19, 0)
エコチル調査への参加意思がある (%)	61.8	48.7	56.6	62.1	56.7	60.2
(ある/ない、どちらでもない、未回答) (人)	(42/5, 21, 0)	(38/7, 32, 1)	(43/5, 26, 2)	(41/1, 23, 1)	(51/10, 29, 0)	(50/11, 22, 0)
エコチル関係講演会への参加意思がある (%)	29.4	29.5	28.9	33.3	27.8	34.9
(ある/ない、どちらでもない、未回答) (人)	(20/10, 36, 2)	(23/12, 43, 0)	(22/6, 46, 2)	(22/6, 38, 0)	(25/10, 55, 0)	(29/12, 42, 0)
サポーター登録の意思がある (%)	11.8	10.3	7.9	19.7	18.3	15.7
(ある/ない、どちらでもない、未回答) (人)	(8/23, 37, 0)	(8/19, 50, 1)	(6/24, 44, 2)	(13/16, 37, 0)	(12/35, 43, 0)	(13/25, 44, 1)